



黒字瑠璃

三

雑
12
三

^ 13
2703
3



門曾 3
2703
殊
卷 3

梅守留理卷之三

梅守留理卷之三

小珍の望後字はくくと申す。留はぐと珍

と申す。懐中多く行いのごとく

く。と此に於ての風俗は矢八幡左衛門。新左衛門

此雅な事つたどのちよき。ちよきとくても

納茶の預投は裾さくくも。とらきりく

大の申す。毛はじれたのけをりく。と。志たおの

東京生田屋大久保
餘丁町百拾貳番地
坪内雄蔵

三十一五
坪内雄蔵

并戸くらし出て、巾着とがね先くら分ちせりあふ
中か、湯もそ出くける、所が、万代の清き山、住吉野
家の之文を、居り、伊み屋で、一ゆ、吸は、多、真も、せ、
よ、去、産の、昆布、糸、て、と、い、は、ら、の、と、香、さ、で、も、打、け
と、と、連、の、も、あ、つ、お、ね、と、い、ふ、糸、の、名、を、自、慢
元より、け、その、ど、た、い、福、よ、身、有、煖、補、よ、に、あ、り、備、あ
よ、く、を、務、せ、と、伯、父、よ、い、ん、と、が、先、ら、ま、と、い、ふ、お、ね、
といふ、と、れ、ぢ、ら、い、げ、男、式、日、の、礼、よ、出、給、と、い、ふ、肩、衣、の

とら、志、先、一、文、字、よ、し、相、引、き、く、七、布、た、ら、お、仕、立
え、あ、出、入、の、で、も、仲、仕、で、も、借、よ、ま、う、は、と、い、ふ、
家、来、と、い、ひ、南、宋、の、院、慶、と、と、梅、よ、り、て、万、の、身
子、で、け、ら、が、り、秋、は、の、夜、に、八、文、字、を、扱、で、見、て、た
の、傍、去、物、し、伏、之、所、の、之、田、で、朱、肉、が、り、と、買、う、ぬ
と、不、梅、の、中、う、よ、お、ぬ、考、実、で、秋、い、き、う、う、ぬ
世、夢、よ、よ、と、風、菫、の、あ、と、な、い、と、い、ふ、孔子、も、冠、者、み、た
人、を、よ、お、七、人、浴、沂、風、と、の、こ、ま、ひ、う、い、ま、し、め、く

五丁杖もそもあるまじ。まん若との舞臺もそ。
 童子の法もあるべし。そ前杖東望もそ知べしなむ。
 今後で出合もそ望望の東内よあ及よか入し。
 信半の江合もそ社牒禱のりり抱の深こそ。後者下譜
 の扇と持豪傑も似て政務となり。昔の側近の今
 での元来のおとろひなるべし。賢そうなるは口々
 ならい。いれえ續のよなはか変級のお抄り。金屋を
 深の舟り。一氣のながい。候。後結の物もそ。

連平の出来ぬ。おあひよも中らぬ。とくおあひ
 たばうもいれ人のごころくし。いと月代仕立て
 とく鹿よながい。つものよ。囀もそ。今の大も
 みのもでんも。秘ゆのまじげ。や。草庵集うてを
 ろみからと。あよもおて。ん中らぬ。魚介なぐ。深刺
 してきよみな。まじ。うけよ。おあひ。の。度。た。は
 のたご入。綱も。楽の結ゆ。日。名よ。あり。な。む。虚
 名と。あ。り。あ。る。賣。り。と。あ。る。一。篇。切。や。提。提。

六のり 巻之三

笑ふぬ白服しろくぐらゐの申まをなれば。度たび成なりるのまほふ。
 大だいぬれ人ひと丸まるや。素す人ひと焼やの辰たつみ風かぜ箆へらを。おおきき氣きと舞ま
 の小こ鴨鴨や。まままままで出でて。振ふりのの狭せま切きりの物もの待まちひふ
 膝ひざぐらゐのららむむいと塩しほ煮にしぬ。そそれれららははししもも礼れい軍ぐん
 遊あそ遊び寄よの十じゅう人にん割わりととひひとと友ともららがが。難がた波なみ新あらた比ひの塩しほ江え
 よ宿やどむむりり茶ちや屋やののぬぬがが出で生なままととむむりりははたた人ひとははた。
 合あ母はは鳥とりの祈いのち禱たごひとといいははししてて。ここののいいててししくくししり
 たらと。仕し指さしととごごととぬぬままやや。まま帝みかど季き假かりをを茶ちや屋や

もお紀おき也やと月つきららのの夫おとこよりもととぬぬいい没な落おちのの眼め病びやうのの
 也やうう七しちまま日ひよりもももららくく。同どう姓せいのの名なのの茶ちや屋やのの
 名なととなりりて。おお女によののううととああづづままだだととれれがが仲なかつよよもも身み
 づりづりのの之この味あじ深ふかののととああくく。蕨わらびがが有あとと替か同どうりりなりり
 ぐらぐら。おお所ところ屋やのの錦にしき井いののとと田でん来らいああんんどどのの小こよよ跡あと迹あと
 のの苗なえ氏うぢいいううままくく。芝しば根ねのの家いへ名なのの壯たくま切きりくく。茶ちや屋やをを
 清しみず濁にごののととままとと十じゅう日にちでももももひひけけすすををううてて。美み田でんゆゆらら
 りりでで海うみららをを近ちかがが指さしののままとと髪かみげげてて。且かつ形かたち難がた難がた



三十三



三十三



亥の子時分かうら。おまのあづむらーとこころよく言ひ
法とありての死所の言ひ。あつびぐうく者ごう
うくふあにあらても口の達とあて。

あつむらじと親よの法がよゆれの法

と見ん法くの法まじは舞の。でも坊まう。庵ん
針術とあらうくも宜之。まよりあつむらて。親のよ
だとうりともあつむらに。出入先の子代の内法が
又のあまのあれ案内く。病の根元。先付く

親中がよゆびだらけとあり。揚ろをゆれあつむら
て中りたる。うみゆひ底で人をもに暖簾とく先利
およに。らうとあが。まこあつむらを新様く。女
糸掃花があいろ。ありに二〇カレ後見に中とま
あんどうおてあつむら古町でも婦人のこととあ
店足でハ雨をもせねにちとま。夜はあつむら
し。あつむらのあつむらあつむらに起るあつむら
あつむらにちとあつむらあつむら。大にうらとあつむら

あつむら
あつむら
あつむら

鮎あなはり歩あり。くろ吉きちぐとくろで男おとこのあまをてとくろ
いし船ふねよりひでうに大明ていめい香かでみぐたをみぐたに家いえをか持もせ
と毎まいに髪かみとせひ。入いが方かたもア人ひとんで見みてもまをま居い
之け毛彫けがらのゆわぬ時しをし落おつた。たそくはよこ横よこがり
おぐして衣そうり敷ちの知ち己ご自じ慢まん。新あらた吉きち法はふ屋や町まち新あらた比ひの粹すい
い秋あきありといふ魚いさなで。そまがんさひア。まぐりありて
居い居い久くトヤグ久くぬぞくまぐり。あましら仲なつ買かひ法はふ云い
きふたり。砂すな場ばのそまやで下くだ女めぐ名なとそまぐりと唱なぶり

いかゆゆのあたる。枕まくら右みぎ左ひだりの足あしをを合あににははり
いふて味あじ噌そう々々。胡こ弓きうのしなををひにに他たの齒は
の根ねををうくと。萌も美み羅ら紗さの腰こし持もて家いえ督とく人ひとえ
しり込こ。宿しゆくかゝだんぢりの奉ほう加か帳ちやうはたつき歩あり。眼め
標めがねとどりに扇あふぎの盆ぼん鏡きやう樹じゆたつあけ。浮う世せ小せう路ろの小せう使し
たぶら。こがたはよみどへけ遊あそぶ。侮あやまりもちのころに
追お出しそとつた。娘むすめしそふに久くと奉ほう云いの口くちきくそを
之こ小せうををひ袷あひあととるるぐり。初はつくく奉ほう云い袷あひあの

中へに。ふい今指で益先へ喰ふて来さ。習るし
氣とくく去依垣へあびしはゆふなご。りんき入田中
の中へに。阪へ喰まわり。目見てもく指斬かどまき。
たいつのさになても。親の内へいさまじだ。のや住居の指
いとあり。くつくある内の場もくひるこはるの身
に意の盗とよごろか衣類や小を壊さざつてもめ。
りあへに借まはと。去居にを附の宇宙漂客がたど
この葉まはるく病を便よ。は海場くくどいとま

いよく藝があがひて。ミタの夜とやうそらんど。初
と笛を肩の法力く。眼のこま入。分のなは夜
押さくろふあり。口とだんと懸るまてのよてんがう。中
名いまだ渾名でひりくやよあり。誅の初めの候
やまるといよくなけ腰がとらり。そこのよは病いさね
中へにあり。又まひとどひて長町といふ梁と泊まき
か。一家の考れ目走くらくと。解ちものどく
油まあよ中とこれゆれへ。運のまら先のうかき

三十三

榮種さかたねが不伏ふふくで綿わたが少すくきで。色いろくの不時ふとどが入いる。階ひまよ
あり。浅嶋あしじま棟たけの代だい傍そばりり。麒麟きりんの後ご見みと。七化あぐけの早
がりり。どよみやうふ屋やら角かく力ちからとりよさるが西せい之の
法い初はつ植ち集じ或あるち花はな多た大神おほい矣や。室むろらとせゆののいい立た立た
の神かみ主ぬしの。右田みぎのたで十八じゅうはち神道かみちの免めん許まじう多た。冠かんむりふ女むすめ服く
の形かたち淋しみどくししいなり。そふそふなりとべ。又また十じゅう之の次ぎの道みち
末すえもの。或あるち末すえ一いつ鹿か之の火ひ消けの考こう口くち持もちの仲なつ回まわりり。
ま次によごに花はなの習なまひこととの。程ほどく礼れい誇たか礼れいのううとせく。

納ちや下げ礼れいを。心こころにこころととる返かへりなりなりいり。いりわて
なく。そのうう之の疥い癬せんの瘡かさのとと足あしををままねね染そめめなる。
甲斐かいをを記し念ねんががりりととくく長ながううちち。慈あはれをを中ちゆうの老らう人にんが
えりりて。古ふる多た子こらら小こをを様やうままををかかひひく。風かぜ是こゝ也なり。其その
つり髪かみ月つき代しろ也なり。心こころにこころああままててききひひにに祈いのちががささすすが
親おやのううちちの友とも居いままるる。ううちちくくああままくく又また惡あつ祈いのちをを
ままここすすねね中ちゆうううちち。我われ肉にく入いははままささくくををどどらら。思おもひひ
ににががををまますす。是こゝ是こゝもも被ま行ゆのの心こころとと川かわ水みづ汲くみせせ風かぜ

呂たうせ、あゝの者の只居るい毒と。其実主の世話ら。
たきとこのの侍さふれた。子炊女直路靴て素白漬
ねとませ。抄子あきりぐらゐいと。火吹竹の小口は福袋
塗ておた。下女が密売たる白壁作その見先に。○と世
煮燃と然と帰によりの夜中。三日と何ともしたは死
味が出と。あやとたれ小女良が夢えりやに。引ても落
ちたよても落とば中になつてい。持も被もあは
梅宇らぬ里をくくと旅

